

ハンドボール競技におけるポストのシュートプレーに関する研究

井上 元輝 (200811893、ハンドボール方法論)

指導教員：會田 宏、河村 レイ子

キーワード：ポストプレー、DF システム、チーム戦術

【目的】

ポストシュートはセットオフenseの中で最も成功率が高いシュートである。ポストプレーヤーはバックコートプレーヤーと合わせて動き、相手DFの対応を難しくさせる。そのためポストエリアでの役割が攻撃を成功させるために重要になってきている。そこで本研究では、学生、国内、世界レベルの男子のポストプレーを対象に、DF システムに応じたバックコートプレーヤーとポストプレーヤーのコンビプレーの特徴、ポストシュートの特徴などを明らかにし、今後のポストプレーの指導の有用な知見を得ることを目的とした。

【方法】

2011 年関東学生リーグ 18 試合、2009 年日本リーグ 7 試合、2011 年世界選手権大会 8 試合の全 33 試合を対象とした。

分析項目は、大会名、対戦チーム、コンビプレーのあった時間、DF システム、シュート結果、ポストプレーヤーがボールをもらった高さ、位置、パサーのパス前の動き、ポストプレー前のチーム戦術、ポストプレーヤーがボールをもらう前の動き、ポストシュート時の DF の接触、ポストプレーヤーのシュート直前のフェイントの 12 項目であった。

分析項目ごとに生起数をカウントし、各分析項目ごとの割合を算出した。さらにそれらを競技レベルごとに分けて示した。最後に DF システムごとに、ポストプレーヤーがボールをもらう前の動きごとに生起数を示した。

各分析項目の生起数の偏りを明らかにするために適合度の検定を行った。各分析項目と競技レベル、DF システム、ポストプレーヤーがボールをもらう前の動きとの関係を明らかにするためにカイ 2 乗分析と残差分析を行った。いずれの分析においても有意性は 5% で判定した。

【結果】

競技レベル別に考察した結果、競技レベルが上がるにつれてポストシュートの成功率が上がること(表 1)、接触されてもシュート到達していること、フェイントをせずにシュートをシンプルに撃っていることが明らかになった。

また、DF システム別およびポストプレーヤーがボールをもらう前の動き別に考察した結果、消極的 DF に対するポストプレーはポジションプレーによるものが多く(表 2)、ポジションプレーの時には浮くプレーが多いこと、積極的 DF に対するポストプレーはシステムチェンジによるものが多く、システムチェンジの時にはスライドプレーが多いことが明らかになった。

表 1 シュート結果と競技レベルとの関係

	学生	国内	世界
ゴール	127(62.3%)	64(64.0%)	65(65.0%)
ノーゴール	58(28.4%)*	21(21.0%)	16(16.0%) [△]
7m 7m スロー獲得	19(9.3%) [△]	15(15.0%)	19(19.0%)*
合計	204(100%)	100(100%)	100(100%)

カイ 2 乗値=10.0, p<0.05

*...有意に大きい, [△]...有意に小さい

表 2 ポストプレー前のチーム戦術とDFシステムとの関係

	消極的	積極的
システムチェンジ	21(24.7%) [△]	128(48.1%)*
ポジションチェンジ	20(23.5%)	50(18.8%)
ポジションプレー	37(43.5%)*	72(27.1%) [△]
FT	7(8.2%)	16(6.0%)
合計	85(100%)	266(100%)

カイ 2 乗値=15.1, p<0.05

*...有意に大きい, [△]...有意に小さい

【考察】

学生、国内レベルはゴールから離れた位置でボールをもらっているためフェイントをせざるを得ないが、世界レベルではよりゴールに近い位置でボールをもらいフェイントをせずにシンプルにシュートを撃っていることが考えられる。

【結論】

確率の高いシュートを撃つために、ポストプレーヤーは DF システムに応じたチーム戦術の中で、よりゴールに近い位置でボールをもらい、DF プレーヤーに捕まったりフェイントをしたりせずにシュート到達することが重要である。